

「戦前中国・朝鮮における日本租界の研究 —日本人社会の形成，変容，消滅にいたるプロセスの解明」 (2006年～2007年)

(1) 共同研究グループの組織と課題

詳細は本共同研究のホームページ

<http://human.kanagawa-u.ac.jp/kenkyu/group/nittsu/index.html> を参照。

(2) 研究活動の報告

本共同研究グループ（以下、租界研究会と略称）は、2000年以降の中国の旧日本租界に関連する研究の中間成果を大里浩秋・孫安石編『中国における日本租界—重慶・漢口・杭州・上海』（御茶之水書房，2006年3月）として出版し，2006年4月から学内の共同研究奨励の採択を受け新たな研究を始めた。



目次

まえがき	大里浩秋
第一部	長江流域の日本租界
	長江上流の影薄き夢—重慶租界 楊暁・田正平
	漢口の都市発展と日本租界 孫安石
	杭州日本租界のたどった道 大里浩秋
	『浙江文化研究』初探 大里浩秋
	日本が上海に租界をつくらうとした件の資料 熊月之（王京訳）
	西洋上海と日本人居留民社会 陳祖恩（谷川雄一郎訳）
第二部	租界の建築と都市計画
	中国における各国租界の特色 費成康（武井克真訳）
	租界の欧米建築の文化遺産についての試論 羅蘇文（村井寛志訳）
	上海近代の都市計画の歴史とそのパラダイム研究 李百浩（孫安石訳）
	漢口租界の都市と建築 李江
	漢口日本租界の都市空間史 富井正則
第三部	資料編
	重慶日本租界関連資料次 大里浩秋
	漢口日本租界関連資料 孫安石
	杭州日本租界関連資料 大里浩秋
	建築年表・歴史年表 白井克典・関根和也
あとがき	孫安石

以下，2006年4月以降の研究活動について箇条書きする

① 2006年6月18日（日）～24日（土）「租界研究会」台湾資料調査

台湾の国史館と中央研究院近代史研究所檔案館が所蔵する中国租界関連の資料を調査した。

② 2006年7月30日（日）「租界研究会」例会開催

神奈川大学横浜キャンパス 17号館 23教室で開催された例会では，研究会の打ち合わせの他に，
(一)「中国・天津の租界関連資料について」（貴志俊彦，島根県立大学）

(二)「台湾における日本租界関連資料について」(川島真, 北海道大学)の報告をきくことができた。

③ 2006年8月20日(日)～26日(土) 上海の在華紡(公大・内外綿)の建築調査

同期間に(一)上海の公大紗廠・内外綿株式会社の社宅建築調査,(二)日本人・中国人労務者用の住宅調査を行い,一部図面を作成した。

④ 2006年9月7日(日)～11日(月)「租界研究会」上海の資料調査

上海市図書館,上海市檔案館が所蔵する租界関連の資料調査を行ったほか,上海社会科学院歴史研究所の上海史研究グループと意見交換を行った。

⑤ 2006年10月19日(木)「租界研究会」例会開催

2006年8月に実施した上海在華紡関連施設,住宅の調査報告会を行った。

⑥ 2007年3月2日(金)「中国における日本租界研究」ワークショップ

2003年以降の台湾における旧日本租界に関連する資料調査の中間報告としてワークショップを開催した。

【プログラム】

第一部 司会 吉井蒼生夫(神奈川大学)

1 「台湾国史館の日本租界関連資料から読み取れること」 大里浩秋(神奈川大学)

2 「1936年漢口の日本租界をめぐる日中の攻防」 孫安石(神奈川大学)

3 「横浜住民がみた居留外国人」 斎藤多喜夫(横浜都市発展記念館)

第二部 司会 村井寛志(神奈川大学)

4 「上海の在華紡の住宅調査報告」 富井正憲(神奈川大学)

5 「在華紡の福利施設—内外綿上海工場の事例」 芦沢知絵(東京大学博士課程)

6 「中国における最近の租界研究動向」 陳祖恩(上海、東華大学)

コメンテータ 川島真(東京大学)・貴志俊彦(島根県立大学)・高網博文(日本大学)

(孫安石)

(平成 18) 年度活動報告書

日中関係史

今年度もいろいろあった。特筆すべきは、グループ員を中心とする「戦前中国、朝鮮における日本租界の研究」の企画が、学内共同研究助成を受ける事になったことである。2年間で精一杯の研究をしたいと思う。他にも、機会を見つけては講演会を開き、研究会をやって、結構忙しかった。振り返ってみて、租界のことを含めてよくやったともいえるが、思いつきで一貫性があるとはとてもいえない。来年は開始時にグループ員の集まりを持って年間計画を立てる事にしたい。以下は、今年やったことである。租界に関する活動は、共同研究の報告にまとめているので参照のこと。

○講演会

4月27日 16時20分～18時

講師、田畑光永氏（前本学国際経営学部教授）「日本人の中国観—敗戦はそれをどう変えたか」

5月13日 15時～17時

講師、金丸裕一氏（立命館大学教授）「中国の電力産業に関する最近の研究」

5月24日 16時20分～18時

講師、楊中美氏（本学非常勤講師）「日中関係の現状を解く」

6月1日 13時～14時20分

講師、今井美樹、藤枝貴子氏 講演と二胡、アルパの演奏

12月13日 16時20分～18時

講師、佐々木理臣氏（東京新聞編集委員、前台北支局長）「日台関係の今」

○研究会

7月15日 15時～18時

中国人日本留学史研究会 報告者、渋谷玲奈氏（成蹊大学非常勤講師）「戦後における華僑と留学生の統合について—華僑、留学生関連刊行物を資料にして」

(大里浩秋記)

文化のかたち

1. 研究会の開催

(1) 第1回研究会

日時：2006年6月28日（水）16:30～

会場：17号館215会議室

報告：「ゴンザ資料による日本語史研究」

駒走昭二（本学外国語学部専任講師）

(2) 第2回および第3回の研究会を2月・3月に開催予定

2. 活動内容

第1回研究会においては、駒走氏が上記報告を行ったが、それとともに活動方針が検討され、ひとつの柱として「日露交流」が取りあげられることが採択された。このテーマで研究会でのメンバーによ

る報告・検討を重ねていき、叢書『文化のかたち』第2弾としてまとめる。第2回以降の研究会で、次の叢書の全体像を検討していく。

(堤 正典)

西洋文化の受容——思想と言語

1. テーマ：近代日本における西洋文化受容の総合研究
2. 代表者：鈴木修一
3. 活動内容：5年間をかけて読み続けてきた『明六雑誌』の成果を、本研究所叢書20号『「明六雑誌」とその周辺—思想と言語』として出版した。
その後、新たに近代初期の洋学資料を読む計画をもっているが、本年度は休会という状態であった。来年度は、再出発を期している。

(鈴木修一)

物語研究

1. 研究テーマ：物語の構造分析，歴史叙述と文学
2. 代表者：日高昭二
3. 活動内容：物語研究会は、昨年度からメンバーの大半が「2005年度神奈川大学奨励助成」に申請し、その結果大学から採用されたために、研究会としては個別の研究会などは開かれていない。ちなみに、「共同研究奨励助成」のテーマは「表象としての〈日本〉—国際日本学の新展開」で、こちらの代表も日高が兼ねているために、そのような状況になったのである。もとより、この双方とも大学の学術研究の一環として存在するわけであるから、当分は研究会や講演会なども「物語研究」と「共同研究」の二つを重ねるかたちで、開催していきたい。

(日高昭二)

各国地方史の比較史的研究

本共同研究グループは世界史を現存する国家、民族、文明というレベルで考察するのではなく、地方史という地域概念から見直すことを研究テーマとして取り上げ、年に数回の研究会を開き、中国研究者と他分野研究者の発表を行なうことを目指している。

2005年3月には代表の小林一美氏が退職し、孫安石が代表を引継いたが、まだ進むべき方向が定まらず、十分な例会活動を行うことができなかった。

(1) 2007年2月21日 例会

- 1 「中国明・清・民国・人民共和国の地方官
(県知事、県書記)などの任期と勤務の実態」 小林一美(神奈川大学 元教員)

2 「中国・貴州省の苗族と地方志」(仮)

楊志強 (日本学術振興会特別研究員)

小林氏の報告は新編中国地方志叢書の記載を事例に中国の明代から中華人民共和国に至るまでの地方官吏の勤務の実態について報告したもので、楊志強氏は中国の地方志に登場する苗族に関連する記述の変化とともに改革開放以降の中国が直面している民族問題などについても紹介するものであった。

(孫安石)

自然観研究

2000年から、年に1, 2回の講演会を開催してきたが、今年度からは各メンバーが研究発表することになっている。まずは3月に研究会開催の予定である。

2007年度は何人かの研究発表をおこない、叢書としてまとめる方向へ向かう。

以上 (文責：佐藤夏生)

色彩と文化

1. 講演会の開催

(1) 第1回

- ・ 2006年5月26日(金) 14:40～16:40
- ・ 17-215室
- ・ 車貞玖(チャ・ジュン・ミン)(日本大学大学院文学研究科博士課程)
- ・ 日本と韓国における色彩選好—美術学習との関連から—

(2) 第2回

- ・ 2006年10月4日(水) 16:00～17:30
- ・ 17-215室
- ・ 行廣清玉(鎌倉華道会会員・上代古流華道教授)
- ・ いけ花に見る色彩と空間の演出

2. 研究会の開催

(1) 第1回

- ・ 2006年4月5日(水)
- ・ 17-216室(人文学研究所資料室)
- ・ 三星宗雄(神奈川大学人間科学部)
- ・ 色名の分布

(2) 第2回

- ・ 2006年5月10日(水)
- ・ 17-216室(同)
- ・ 尹亭仁(神奈川大学外国語学部)

- ・ 韓国の色名の現在
- (3) 第3回
 - ・ 2006年6月7日(水)
 - ・ 17—216室(同)
 - ・ 彭国躍(神奈川大学外国語学部)
 - ・ 色彩意味論の社会言語学的アプローチ
 - ・ 中国語色彩語彙の造語法
- (4) 第4回
 - ・ 2006年7月6日(水)
 - ・ 17—315室(国際文化交流学科準備室)
 - ・ 星野澄子(神奈川大学人間科学部)
 - ・ 色彩とジェンダー

3. シンポジウムの開催計画 特になし

(三星宗雄)

横浜研究

1. 横浜研究—横浜における多文化共生社会の創出に関する研究
2. 研究会の開催
 - (1) 第1回
 - 開催日：2006年6月7日(水)
 - 会場：神奈川大学17号館401号室
 - テーマ：今年度の研究活動と出版にむけて
 - (2) 第2回
 - 開催日：2006年9月27日(水)
 - 会場：17号館401号室
 - 報告者等：福元雄一郎『我が国における「日系」ブラジル人集住地域をみる視点』(人文学会との共催講演会)
 - (3) 第3回
 - 開催日：2006年11月29日(水)
 - 会場：17号館401号室
 - 報告者等：尹 亭仁『在日外国人200万人時代—理想と現実』
 - (4) 第4回
 - 開催日：2007年1月31日(水)
 - 会場：17号館401号室
 - 報告者等：福嶋 智『外国籍者非集住地域における学校教育の課題について』
 - (5) 第5回
 - 開催日：2007年3月7日(水)
 - 会場：17号館401号室
 - 報告者等：①後藤 晃 ②兼子良夫

3. 国際シンポジウムの開催

(1) 第1回

開催日：2006年11月11日（土）～12日（日）

会場：東京グリーンパレス（市ヶ谷）

テーマ等：第1回国際フィリピン研究会議アジア地区日本大会（First Philippine Studies Conference for Japan：2006）に、「ディアスポラ（越境者・外国籍住民）としてのフィリピン人」をテーマとした2つのセッションの企画・後援を研究会として行った。

(2) 第2回

開催日：2006年12月1日（金）

会場：神奈川大学セレストホール

テーマ：「外国籍住民との共生社会の創造（Ⅲ）：在日フィリピン人を中心として」なお、上記第1回、第2回の国際シンポジウムは「人間科学部開設記念」として行ったものであり、本研究会が実行委員会となった。また、シンポジウムの内容については「人間科学部紀要」に掲載するので、参照いただければ幸いである。

4. 活動内容

本研究会の活動は3年目をむかえて、'07年度に研究成果を出版する予定である。そのための研究活動が今年度行われたが、予定通り進み、報告内容・討論も充実したものとなった。また、研究会活動とやらんで、国際シンポジウムも第3回目を開催できた。シンポジウムについては今年度で予定通り終了するが、その内容の充実はもとより、本学学生、本学内外の研究者、行政関係者、NPO等活動従事者等に大きな影響を与え、またつながりもできたことは、大きな成果であったと思う。

（横倉節夫）

共同研究「神々のコスモロジー」活動報告

今年中の原稿完成をめざし、執筆予定者の報告を中心に、三回の研究会を開催した。

(1) 第二回研究会

日時：2006年4月22日（土）午後3時より

場所：神奈川大学横浜キャンパス17号館4階談話室

報告者：小馬徹「謹厳なハイエナと鷹揚な河童」

(2) 第三回研究会

日時：2006年7月29日（土）午後3時より

場所：同上

報告者：鈴木彰「正直の頭に宿る神」

(3) 第四回研究会

日時：2006年10月21日（土）午後3時より

場所：同上

報告者：山口建治「和名抄の『オニ』について」

今年も、前半は同様の研究会を数回開催し、後半は原稿の完成へと向かう予定である。

（代表者 寺沢正晴）

研究グループ：言語変異研究

代表：彭国躍

研究活動：

1. 資料収集：『二十四史全訳』、『国家図書館蔵敦煌遺書』1～24巻などの大型書籍を購入。
2. 執筆活動：
「上海の道路命名年表—社会言語学的命名論の基礎研究—」
「近代上海の路名と戦争—歴史社会言語学—」
「漢代鄭玄の訓詁学における中国語の敬語訓釈—歴史社会語用論のアプローチ」
「上古中国語の副詞型敬語の研究」など
3. 論集出版に関する打ち合わせ（2007年1月10日14：00～16：00）

今後の活動方針：

これまで個々に進められてきた研究をできるだけグループ活動、論集出版の形で成果を出していきたい。

ジェンダー・ポリティクスのゆくえ

今年度は、各メンバーの専門領域を生かしつつ、どのような共通テーマを追究できるか、という討議に多くの時間を費やした。メンバー同士の個人的討議の他に、つぎのような会合をもった。

①懇談会「スベルマン大学 Japan Studies Program 所長 Dr. Yoko Ueda を迎えて」

日時 2006年6月9日（金）18：00～21：00

場所 東急エクセルホテル横浜

②懇談会「スベルマン大学 International Affairs Center 所長 Dr. Jeanne Meadows を迎えて」

日時 2006年6月21日（水）18：00～21：00

場所 横浜ベイシェラトンホテル

③講演会「多様な性のあり方を考える」講師 野宮 亜紀氏

（TS と TG を支えるひとびとの会）

日時 2006年11月30日（木）18：00～19：20

場所 神奈川大学20号館210番教室

④懇談会「野宮 亜紀さんを囲んで」

日時 2006年11月30日（木）19：30～21：00

場所 神奈川大学17号館22番

（山口ヨシ子）

新購入主要文献解題

セネカ哲学全集 全6巻

大西 英文, 兼利 琢也 編
岩波書店, 2005年～2006年

古代ローマの政治家, 思想家, 詩人であり, また皇帝ネロの家庭教師を務めたことでも有名なストア派の代表的哲学者セネカ。その初の哲学全集が, 断片や偽作を含む全散文作品を網羅する初の完全版全集として出版された。

幸福な生をもたらしてくれるものとは何か, どうしたら怒りを静められるかなど誰もが抱える悩みについて, 簡潔な文章で力強く説くセネカのことばに, これで身近に接することができるようになった。訳も非常に読みやすい。

例えば, 第1巻『倫理論集I』には, 「怒りについて」「心の平静について」「幸福な生について」等が納められているが, 全巻の構成は下記の通ようになっている。

- 1 倫理論集I
- 2 倫理論集II
- 3 自然論集I
- 4 自然論集II
- 5 倫理書簡集I
- 6 倫理書簡集II

(坪井雅史)

韓国開化期教科用叢書 全20巻

韓国学文献研究所 編
亜細亜文化社, 1977年

朝鮮で開化期というのはおおまかに言って, 1860年代から1910年までをさす。つまり封建体制の朝鮮王朝が西欧列強および日本の侵出をうけはじめて国内の混乱が加速し, ついには日本によって完全植民地となってしまう時期をさす。

この時期, 朝鮮ではさまざまな改革が試みられた。自主的な改革が基本であるが, しかし西欧文化の導入そして各国の朝鮮侵出の意図と関わって, そうした改革は少なからず列強の朝鮮侵出政策と陰に陽に交錯する側面をもたざるをえなかった。

今回購入した「韓国開化期教科用叢書」はこうした開化期に展開された自主的な教育活動で使われた教科書の復刻版である。それは列強の朝鮮侵出という時代背景において, 国権回復運動をになう民間教育運動の基軸となるものであった。当時の知識人がいかに民族や国家の危機に苦悩し, それを救うべく

次代の教育に腐心したかが手に取るように分かる。その意味では、たんに教育研究だけではなく、歴史研究、さらには日朝関係の研究にも重要な資料であると言ってよい。

(尹 健次)